

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

様式1（小・中）

学校名	小城市立 牛津中学校																																									
1 前年度 評価結果の概要	全職員による研修や相互参観授業、効果的にICTを活用することで、授業改善を進めることができた。ほとんどの生徒が「先生方の授業は分かりやすい」と答えており、生徒が意欲的に授業に臨む姿が見られた。また、各種の学力検査（定期テスト・実力テスト等）の正答率の向上につながり、無回答率も減ってきている。今後さらに教職員・生徒のICT活用を中心としたスキルを向上させることで、教員の授業力、生徒の意欲の向上に努めたい。「豊かな人間性の育成」についても、ほとんどの全生徒が「望ましい学年・学級集団づくりをされている」と答えている。学級活動や道德等の授業、行事等を通して、「思いやり」や「感謝」について考えることができている。「健やかな体の育成」についても同様に、ほとんどの生徒が「健康教育」を通じて、「自他の命を尊重する態度が育ったと思う」、「健康に食事は大切である」																																									
2 学校教育目標	豊かな人間性を培い、志を高く学び続ける生徒の育成 ～ 主体性と協働性を高めることを通して ～																																									
3 本年度の重点目標	① 確かな学力の育成：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と家庭学習の習慣化 ② 豊かな人間性の育成：支持的風土の醸成を図り、自己存在感や共感的人間関係を育む ③ 健やかな体の育成：健康、安全に対する意識を高め、基礎的な体力の向上を図る																																									
4 重点取組内容・成果指標																																										
(1)共通評価項目																																										
<table><tr><th colspan="3">重点取組</th><th rowspan="2">具体的取組</th></tr><tr><th>評価項目</th><th>取組内容</th><th>成果指標 (数値目標)</th></tr><tr><td>●学力の向上</td><td>○効果的にICTを活用した授業の実践と工夫。 ○本年度も引き続き、ICTを活用した授業実践と教科を超えた相互参観授業研究会の実施。</td><td>○「ICTを活用した授業を実施した」と答える教員を90%にする。 ○「ICT活用に工夫した」と答える教員80%以上。</td><td>・ICT活用研修を定期的 to実施し、職員のICT活用技能向上を目指すとともに、わかりやすい授業の実践を目指す。 ・最低一人1回以上の相互参観授業を行い、積極的且つ効果的な授業でのICT活用を目指し、情報を共有する。</td></tr><tr><td rowspan="3">●心の教育</td><td>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</td><td>○生徒一人一人が安全・安心して過ごせる学校・学年・学級集団づくりを推進する。 ○「特別な教科 道德」の学習を通し、自己有用感・自己肯定感を伸ばしていくことができるよう、アンケート等を活用しながら検証し、割合を80%以上にする。</td><td>・各種行事等で、年間最低1人1回の出番・役割を与え、成果を褒めることで、自己有用感・自己肯定感を伸ばす。 ・全職員で、「特別な教科 道德」の授業を行い、豊かな心や人間性を培い、支持的風土を醸成し、認め合い、助け合い、支えあえる集団づくりの推進を行う。</td></tr><tr><td>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</td><td>○生徒の日常生活や相談、行動、発言等、生徒の変容等を常時観察し、「小城市のいじめ防止・心を考える日」を活用して、定期的な生活アンケート等（月に1回）を実施する。</td><td>・生徒指導部会や生徒支援部会の運営を充実させ、情報を共有し、いじめの未然防止に努める。 ・QU検査の実施により、支援が必要な生徒の把握と対応に努める。</td></tr><tr><td>●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 ○校内適応指導教室「支援ルーム」の効果的な運営。</td><td>●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上</td><td>・開発的生徒指導の機能を生かした取り組み。（出番・役割・承認） ・各種の行事や活動で生徒に活動の見通しを持たせ、振り返りを行う活動を充実させ、将来の夢や目標に繋げていく。</td></tr><tr><td rowspan="2">●健康・体づくり</td><td>●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」。</td><td>●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上</td><td>・学校給食を「食育」の中心に据え、健やかな体を育むための食に対する知識の習得と自分の健康について考えた食事をしようとする態度の定着を図る。 ・給食時に「一口メモ」を放送し、食に関する知識を習得させる。 ・早寝、早起き、朝ご飯の推進。</td></tr><tr><td>○健康・安全教育の推進。</td><td>○健康教育や予防教育等を年1回計画し実施するとともに、保健体育の授業においても、随時実施する。</td><td>・発育測定やスポーツテスト等で自分の体の発育・発達を知り、健康に生きる意識を高める ・学校医や各関係機関等の外部講師による保健指導の工夫と実践。</td></tr><tr><td rowspan="2">●業務改善・教職員の働き方改革の推進</td><td>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</td><td>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上</td><td>・部活動活動方針を遵守し、活動時間や活動内容をガイドラインを守った指導・支援。 ・定時退勤推進日の設定を行い、前年度の時間外在校時間の削減。</td></tr><tr><td>○一枚岩のチーム牛津を意識した効率的な業務の推進。</td><td>○組織的且つ、効率的な業務への取組を推進し、教職員の時間外在校時間を削減する。</td><td>・組織的な業務遂行を進めることで、個人の業務負担を軽減するとともに、風通しのよい職場環境づくりに務める。</td></tr><tr><td>●特別支援教育の充実</td><td>○個別の支援計画等により、職員の共通理解を図り、全職員で支援を行う。</td><td>○特別に支援を要する生徒の共通理解・共通実践により保護者・生徒・教師との合意形成を図り、支援にあたる。</td><td>・支援を要する生徒への対応・支援体制の組織化を図るため、担任や、特別支援教育コーディネーター、教育相談担当を中心にSC、SSW等との連携を図る。 ・巡回相談及び専門家派遣が必要ときには研修の機会を設け、保護者との連携を図りながら、専門家からの指導・助言を支援に生かす。</td></tr></table>				重点取組			具体的取組	評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	●学力の向上	○効果的にICTを活用した授業の実践と工夫。 ○本年度も引き続き、ICTを活用した授業実践と教科を超えた相互参観授業研究会の実施。	○「ICTを活用した授業を実施した」と答える教員を90%にする。 ○「ICT活用に工夫した」と答える教員80%以上。	・ICT活用研修を定期的 to実施し、職員のICT活用技能向上を目指すとともに、わかりやすい授業の実践を目指す。 ・最低一人1回以上の相互参観授業を行い、積極的且つ効果的な授業でのICT活用を目指し、情報を共有する。	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒一人一人が安全・安心して過ごせる学校・学年・学級集団づくりを推進する。 ○「特別な教科 道德」の学習を通し、自己有用感・自己肯定感を伸ばしていくことができるよう、アンケート等を活用しながら検証し、割合を80%以上にする。	・各種行事等で、年間最低1人1回の出番・役割を与え、成果を褒めることで、自己有用感・自己肯定感を伸ばす。 ・全職員で、「特別な教科 道德」の授業を行い、豊かな心や人間性を培い、支持的風土を醸成し、認め合い、助け合い、支えあえる集団づくりの推進を行う。	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○生徒の日常生活や相談、行動、発言等、生徒の変容等を常時観察し、「小城市のいじめ防止・心を考える日」を活用して、定期的な生活アンケート等（月に1回）を実施する。	・生徒指導部会や生徒支援部会の運営を充実させ、情報を共有し、いじめの未然防止に努める。 ・QU検査の実施により、支援が必要な生徒の把握と対応に努める。	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 ○校内適応指導教室「支援ルーム」の効果的な運営。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・開発的生徒指導の機能を生かした取り組み。（出番・役割・承認） ・各種の行事や活動で生徒に活動の見通しを持たせ、振り返りを行う活動を充実させ、将来の夢や目標に繋げていく。	●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」。	●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上	・学校給食を「食育」の中心に据え、健やかな体を育むための食に対する知識の習得と自分の健康について考えた食事をしようとする態度の定着を図る。 ・給食時に「一口メモ」を放送し、食に関する知識を習得させる。 ・早寝、早起き、朝ご飯の推進。	○健康・安全教育の推進。	○健康教育や予防教育等を年1回計画し実施するとともに、保健体育の授業においても、随時実施する。	・発育測定やスポーツテスト等で自分の体の発育・発達を知り、健康に生きる意識を高める ・学校医や各関係機関等の外部講師による保健指導の工夫と実践。	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・部活動活動方針を遵守し、活動時間や活動内容をガイドラインを守った指導・支援。 ・定時退勤推進日の設定を行い、前年度の時間外在校時間の削減。	○一枚岩のチーム牛津を意識した効率的な業務の推進。	○組織的且つ、効率的な業務への取組を推進し、教職員の時間外在校時間を削減する。	・組織的な業務遂行を進めることで、個人の業務負担を軽減するとともに、風通しのよい職場環境づくりに務める。	●特別支援教育の充実	○個別の支援計画等により、職員の共通理解を図り、全職員で支援を行う。	○特別に支援を要する生徒の共通理解・共通実践により保護者・生徒・教師との合意形成を図り、支援にあたる。	・支援を要する生徒への対応・支援体制の組織化を図るため、担任や、特別支援教育コーディネーター、教育相談担当を中心にSC、SSW等との連携を図る。 ・巡回相談及び専門家派遣が必要ときには研修の機会を設け、保護者との連携を図りながら、専門家からの指導・助言を支援に生かす。
重点取組			具体的取組																																							
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)																																								
●学力の向上	○効果的にICTを活用した授業の実践と工夫。 ○本年度も引き続き、ICTを活用した授業実践と教科を超えた相互参観授業研究会の実施。	○「ICTを活用した授業を実施した」と答える教員を90%にする。 ○「ICT活用に工夫した」と答える教員80%以上。	・ICT活用研修を定期的 to実施し、職員のICT活用技能向上を目指すとともに、わかりやすい授業の実践を目指す。 ・最低一人1回以上の相互参観授業を行い、積極的且つ効果的な授業でのICT活用を目指し、情報を共有する。																																							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒一人一人が安全・安心して過ごせる学校・学年・学級集団づくりを推進する。 ○「特別な教科 道德」の学習を通し、自己有用感・自己肯定感を伸ばしていくことができるよう、アンケート等を活用しながら検証し、割合を80%以上にする。	・各種行事等で、年間最低1人1回の出番・役割を与え、成果を褒めることで、自己有用感・自己肯定感を伸ばす。 ・全職員で、「特別な教科 道德」の授業を行い、豊かな心や人間性を培い、支持的風土を醸成し、認め合い、助け合い、支えあえる集団づくりの推進を行う。																																							
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○生徒の日常生活や相談、行動、発言等、生徒の変容等を常時観察し、「小城市のいじめ防止・心を考える日」を活用して、定期的な生活アンケート等（月に1回）を実施する。	・生徒指導部会や生徒支援部会の運営を充実させ、情報を共有し、いじめの未然防止に努める。 ・QU検査の実施により、支援が必要な生徒の把握と対応に努める。																																							
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 ○校内適応指導教室「支援ルーム」の効果的な運営。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・開発的生徒指導の機能を生かした取り組み。（出番・役割・承認） ・各種の行事や活動で生徒に活動の見通しを持たせ、振り返りを行う活動を充実させ、将来の夢や目標に繋げていく。																																							
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」。	●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上	・学校給食を「食育」の中心に据え、健やかな体を育むための食に対する知識の習得と自分の健康について考えた食事をしようとする態度の定着を図る。 ・給食時に「一口メモ」を放送し、食に関する知識を習得させる。 ・早寝、早起き、朝ご飯の推進。																																							
	○健康・安全教育の推進。	○健康教育や予防教育等を年1回計画し実施するとともに、保健体育の授業においても、随時実施する。	・発育測定やスポーツテスト等で自分の体の発育・発達を知り、健康に生きる意識を高める ・学校医や各関係機関等の外部講師による保健指導の工夫と実践。																																							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・部活動活動方針を遵守し、活動時間や活動内容をガイドラインを守った指導・支援。 ・定時退勤推進日の設定を行い、前年度の時間外在校時間の削減。																																							
	○一枚岩のチーム牛津を意識した効率的な業務の推進。	○組織的且つ、効率的な業務への取組を推進し、教職員の時間外在校時間を削減する。	・組織的な業務遂行を進めることで、個人の業務負担を軽減するとともに、風通しのよい職場環境づくりに務める。																																							
●特別支援教育の充実	○個別の支援計画等により、職員の共通理解を図り、全職員で支援を行う。	○特別に支援を要する生徒の共通理解・共通実践により保護者・生徒・教師との合意形成を図り、支援にあたる。	・支援を要する生徒への対応・支援体制の組織化を図るため、担任や、特別支援教育コーディネーター、教育相談担当を中心にSC、SSW等との連携を図る。 ・巡回相談及び専門家派遣が必要ときには研修の機会を設け、保護者との連携を図りながら、専門家からの指導・助言を支援に生かす。																																							
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目																																										
<table><tr><th colspan="3">重点取組</th><th rowspan="2">具体的取組</th></tr><tr><th>評価項目</th><th>重点取組内容</th><th>成果指標 (数値目標)</th></tr><tr><td>○小中連携</td><td>○小中連携による学力向上の取り組み。</td><td>○小中による情報共有を定期的且つ、必要に応じて行う。</td><td>・小中連携した学校力向上対策運営委員会を活性化させ、積極的に授業参観や情報交換会を行い、成果と課題、今後の取り組みについて検討、共有する。 ・生徒指導や教育相談担当者間での情報交換及び情報共有を行っていく。</td></tr></table>				重点取組			具体的取組	評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	○小中連携	○小中連携による学力向上の取り組み。	○小中による情報共有を定期的且つ、必要に応じて行う。	・小中連携した学校力向上対策運営委員会を活性化させ、積極的に授業参観や情報交換会を行い、成果と課題、今後の取り組みについて検討、共有する。 ・生徒指導や教育相談担当者間での情報交換及び情報共有を行っていく。																												
重点取組			具体的取組																																							
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)																																								
○小中連携	○小中連携による学力向上の取り組み。	○小中による情報共有を定期的且つ、必要に応じて行う。	・小中連携した学校力向上対策運営委員会を活性化させ、積極的に授業参観や情報交換会を行い、成果と課題、今後の取り組みについて検討、共有する。 ・生徒指導や教育相談担当者間での情報交換及び情報共有を行っていく。																																							
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育																																										
5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・																																									